令和２年９月 19 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
令和２年度 第５回

今日は梅川代表が素読を主導されました。抑揚があって全体の雰囲気は良うございました。ただ、所々つかえていましたので、細かな所を事前に注意されると良いと思います。私は今、赤城山で日本陽明学の祖と云われる中江藤樹の本を読みこんでいますが、文章が漢文で書かれているものが多く、難しいものばかりです。皆さんのお手元の素読のテキストに書いてあるのは、読み下し文です。論語は古代中国語ですから、白文で書かれています。それを昔の日本人は返り点（レ点や一二点など）を発明して、日本語に読み下すという能力を身に付けました。年代によって、80 代・90 代の方ですと白文という呼び方に懐かしさを覚えると思います。私は今 70 代ですが、学生の頃に漢文を習いましたから、漢文と言った方が何となくピンときます。

素読も小学校低学年くらいまでの子供さんは、スムーズに覚えてしまいます。小学校高学年や中学生になると、意味がどうとか考えてなかなか暗記出来ません。低学年は無意識に覚えて、それがずっと一生続いていって或る日突然はっと氣が付く、という活用の仕方が出来ます。ですから私たちが素読をする時には、小さい子供の感覚になって素直に読んでみる。その中で氣に入った文章があれば、何度も何度も繰り返して読めばよろしいでしょう。

ちなみに先ほど申しました中江藤樹は、読み方を教えてくれる先生がいませんので、独学で身に付けて行ったわけです。古代中国語をひたすら何度も読み返して自分で納得する、という読み方をしていたのですから、大変な勉強の仕方だったと感じています。

君臣の義

では、論語の解説から参りましょう。今日は微子篇７です。

何度も申し上げていますが、私の解釈は論語を現代に置き換えてお話しています。古代中国語で書かれたものを日本語として読みこなした時、現代の日本に置き換えたらどうなるか。そういう観点で見ていくと、今の時代によく似ているなとか、今の時代では考えられないとか、自分自身のものの見方と照らし合わせながら読むとよろしいでしょう。

では、少しずつ区切って解説致します。

子路 従いて後れたり。

子路が先生のお供をしていて、一行からはぐれてしまいました。

・・・孔子は諸国を歩き回って、自分の主義主張を受け入れてくれる国を探しました。そこに弟子たちがお供で付いていく。彼らは何処かの国に仕えて立身出世をしたいわけです。孔先生の後についていけば、先生が私を鍛えてくれて、尚且つ良い就職口（今で言えば高級官僚で雇って貰えるところ）も探してくれるだろうと、期待をしながらぞろぞろ付いて歩くわけです。ただその中で子路は実際後に仕えましたが、そういう氣持ちがあまり強くはない、孔子が好きで好きでたまらないという人物ですから、孔子の後をやんちゃ坊主がくっついていくようなイメージで捉えて下さい。

やんちゃ坊主の子路ですから、あちらこちらよそ見をしながら歩いていて、氣付いたら誰もいなかったという状況でしょう。

丈人の杖を以て蓧を荷えるに遇う。

杖をついて竹の籠を背中に担いだ老人に出会いました。

或いは別の解釈をすると、杖の先に竹籠を下げて、その杖を肩にかけていたとも見えるので、その時の氣分でどう捉えても結構です。

・・・人前で杖をついて歩くというのは二つ意味があります。一つは、私は年寄りだと公に示しているわけです。もう一つは、ある程度身分のある人、ある程度収入がある人を意味しますから、杖人とは、尊敬される立場の人間だと考えればよろしいでしょう。

三島中洲は大正天皇の漢詩の先生でしたから、陛下の御前に上がる時も、普通は杖を持っていくことはしないけれども、それが許されるような扱いでした。今の時代はどうでしょう。老人が杖をついて電車に乗って来ても、寝たふりをしたり、前に立っても席を譲らない人もいます。杖をついて歩いていても周りが氣を使わない時代になっている氣がします。

子路 問いて曰く、子 夫子を見たるかと。丈人曰く、四体勤めず、五穀分たず。孰をか夫子と為すと。其の杖を植てて芸る。子路 供して立つ。子路を止めて宿せしめ、鶏を殺し黍を為りて、之を食わしめ、其の二子を見えしむ。

子路が尋ねました。「ご老人、私の先生を見かけられませんでしたか。」

老人が答えました。「お前の先生は五体満足であるのに働きもせず、五穀が何かも知らないだろう。お前の先生が誰だか、私に分かるわけがないだろう。」そう言って、杖を畑

に突きさして草取りを始めました。

子路は敬意をもって手を組み、きちんと立っていました。

老人は子路をなかなか感心な男だと思い、引き留め家に泊まらせて鶏を殺して黍飯をふるまい、二人の子供にも引き合わせました。

・・・老人は全部承知の上で、少し意地悪な言い方をしたわけです。それに対して子路が敬意をはらって背筋を伸ばして立っていたので、感動したのでしょう。子路を一晩もてなし、子路も感激している、という良い場面です。

今の時代、なかなかありませんね。ただ、酒の友というのはこういうこともあるようで、飲み屋で意気投合してそのまま家に連れて来てしまう、という話も聞きます。それも今はコロナ禍で、三密ということになりますから、古き良き時代の風習になってしまいました。

「供して立つ」・・・きちんと背筋を伸ばして立った時には、自然と周りの人を感化するだけの発信力があるとお考え下さい。

明日(めいじつ) 子路(しろ)行(ゆ)きて以(もっ)て告(つ)ぐ。子(し) 曰(いわ)く、隠者(いんじゃ)なりと。子路(しろ)をして反(かえ)りて之(これ)を見(み)しむ。至(いた)れば則(すなわ)ち行(さ)れり。

翌日、子路は孔子に追いついて報告をしました。

孔子が「それは世を避けた賢人であろう」と答えて、子路にもう一度戻って礼を言い、自分の主義主張を伝えなさいと命じました。

子路がその家にたどり着くと老人は外出していたので、子路は子供たちに伝言しました。

子路(しろ) 曰(いわ)く、仕(つか)えずんば義(ぎ) 無(な)し。

子路が言うには、「あなたは仕官をしていないから、義務がないでしょう。」

・・・総裁選が終わりましたから、石破さんで考えます。今回は石破潰しが功を奏して、私は第三位に甘んじた。私が菅政権に仕えるのであれば菅政権に対して義務が生じるけれども、仕えなかったのだから義務は生じない。私は私なりに次の政権を目指してこう動きたい…というところでしょうが、石破派から一人、大臣が出ました。もともと石破さんは派閥は作らないと言っていたのが、いつの間にか作っていましたから、言っていることとやっていることが違うのではないかと私は石破さんに対して思っています。自分の派閥から大臣を出したのだから、是々非々で少しは話を聞かなければならない･･･と、ここを読みました。

菅さんで考えます。菅さんは安倍政権で長く仕えましたが、途中で干されました。干さ

れたけれども、我慢して腹にあるものを出さずに非常に印象良く、言い方を変えれば影の薄い状況になっても、ずっと仕え続けたわけです。尚且つ今回、安倍政権の継承を打ち出しました。ですからここは、安倍さんに仕えて官房長官を全うしたのだから、私は安倍政権に対して義理がある。したがって、加計問題については口を封じる…というところでしょう。

一度義理を持ったなら、ずっとその義理を重んじていくというのは、政治家としてはめずらしいと感じます。ただ、政治家ですから舌は二枚も三枚もあるととれば、「仕えずんば義無し」（仕えたことによって義理も生ずる）というのは表面の言葉であって、一皮めくれば自分にとってどちらが都合がよいかを計算し、都合の良い方にあわせて言い方・話し方が変わって来るではないかと思います。そうすると、やはり論語で言えば言行一致が判断基準となりますので、素直に判断できます。

長幼の節は、廃すべからず。君臣の義は、之を如何ぞ其れ之を廃せん。

あなたは自分の子供二人を私に会わせてくれました。ご自分も長幼の順序を守っているではないですか。長幼の序はなくしてはならないものなのですから、一たび主君と仰いだなら、どうして家臣が自分から君臣の義を廃止してよいでしょうか。

・・・君臣の義という部分で、日本の江戸時代をみれば、「君 君たらずとも、臣 臣たり（主君が阿呆であっても、家臣はきちんと主君を守って自分の分を全うせねばならない）」と、官学（当時は朱子学）で教えていました。

ジャパンライフの社長が詐欺商法で逮捕されましたね。詐欺商法で金を集めて、本人は月給 300 万を貰っていたけれども、内部の人間は何も言わなかった。「君 君たらずとも、臣 臣たり」、上が駄目でも下はきちんとやりなさい。そのうち上も守るから・・・ということですが、今の時代それは通じなくなっているようです。

其の身を 潔 くせんと欲して、大倫を乱る。

あなたは自分一人潔く行動しても、人間としてなすべき道を乱しているではありませんか。

・・・自分だけ潔いことをやっていても、全体の調和を乱しているということです。前回もお話しましたが、私は赤城山で自炊をしています。ご飯は炊けるようになりましたが、問題はおかずです。家内に「親子丼ぶりなら出来ますよ」と言われ、挑戦して、これは出来ました。次は何がよいかと考えて、カレーに挑戦しました。市販のルーを買って来て、書いてある通りに肉やジャガイモを炒めて、煮て・・・、そこまでは良かったのですが、

ルーを全部入れるような絵が描いてあったので、全部入れてしまったのです。出来上がったカレーはドロドロでしょっぱくて、何度も水を足して、食べきるのに大変でした。やはり教科書通りにやらなければいけませんね。尚且つ、基本通りやるためには、教科書とそれを教える先生が要る。先生に聞きながらやった方が、きちんとしたものが作れるのだろうなと感じました。

ということでこの文章を、自分で自分のことはきちんとやるぞ！と一人でやってみたら、基本通りに出来なくて料理も失敗してしまった･･･と自分自身に置き換えました。

君子(くんし)の仕(つか)うるや、其(そ)の義(ぎ)の行(おこな)わんとなり。道(みち)の行(おこな)われざることは、已(すで)に之(これ)を知(し)れりと。

これは孔子が隠者の老人に対して言った言葉です。

君子が仕官するということは、人間としての道を世の中に普及しようとするからなのだ。今の時代、道徳が行われていないことは承知の上である。そう孔先生が言っておりました。あなたは、一人だけ良い子で隠れてしまって、それでよいのでしょうか…という言葉が含まれています。

恒例の質問

さて、恒例の質問に参ります。コロナが発生してだいぶ経ちましたから、振り返ってみるのにちょうどよい時期です。テーマも、７月は「コロナ禍」、９月は「コロナ禍Ⅱ」と致しましたから、コロナが始まってから今日までででお考え下さい。

○　その間、良い日が続いたという方

○　その間、嘘を比較的つかなかった方

○　その間、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

○　その間、健康法を実践している方

○　その間、自分自身を向上させるようなことをしていた方

人によっては、この質問を待っていた！ とばかりパッと手を挙げる方もおられるし、視線を感じてちょっとだけ手を挙げた方もいらっしゃいました。

今お聞きしているのは、客観的に聞いているのではなくて、自分自身がどう思っているかが肝心です。これは陽明学のものの考え方です。客観的に見て良いとか悪いとか、是・非と見るのではなく、自分の心の中に良いところ・悪いところを見抜く判断基準があるかです。嘘をついていると心が咎めますね。良いことをしたら気持ちが良いと思う。ですから自分の心の中にある良心、心の中にある何ものかに対して、恥ずかしくないと思えたな

ら手を挙げる。又は、手を挙げないという選択をすればよいのです。人から見られてどうかではなく、自分の心の中がどうかという判断でお願いします。

最後の質問です。

○　昨晩、明日ことを（明日以降のことも含めて）過去形でイメージして眠れた方

ちなみにこれは、カーネギーやポール・マイヤーといった世界的に見て大金持ちに属する人たちが採った方法のようです。これが普通に出来るようになると、小金持ちくらいにはなれると思います。

コロナとの共生

今月は東京フォーラムも北関東フォーラムも再開しております。郡山茶話会も来週開催致します。もう、コロナとの共生が始まったのだなと感じています。

今年取り上げたテーマをざっと振り返ってみますと、1 月のテーマは「庚子」でした。正月に年賀状を皆さんに差し上げましたが、今年は何か得体の知れないものが発生して日本国中に一氣に広がっていく、というようなこと書きました。3.11 の年（平成 23 年）の年賀状は、沢山の命が失われ復活が始まるという内容だったと記憶しています。私はそれが師走近くだろうと思っていましたが、3 月に起きてしまいました。

2 月のテーマは「今年は荒れる年」でした。干支学で 60 年前をみると、60 年前の昭和 35 年は暴力が吹き荒れた年でした。野党社会党の党首浅沼稲次郎が演説の壇上で右翼の青年に刺されて亡くなりました。それから、安保反対の騒動の際中に東大の学生樺美智子が押しつぶされて亡くなりました。これも暴力のしからしむる事件でした。

他にもいくつか暴力的な事件がありました。政治家は安保法案を通そうと、反対する野党を押さえつけるため国会に警察官を導入しました。暴力団の松葉会が自分達を批判した毎日新聞社に殴り込みをかけました。三池炭鉱のストライキが 1 月に始まって 11 月まで続きました。ですから今の香港のような暴力が吹き荒れたわけです。そして、今年も同じように荒れるということを申しました。

その後、コロナが発生しました。フォーラムも中止となり、その間、中斎塾通信号外で「コロナ禍」について発信致しました。何故コロナが起きたのか。単純明快な答えは、人類が増え過ぎたということです。人間が増殖し過ぎたのでウィルスが人間に取り付いたということです。人間の増え方が異常ですから、どう見ても人類は半分くらい減る、そういう巡りあわせに来ているのだろうと思います。

大正 7 年に日本ではスペイン風邪が流行って、相当な人数が亡くなりました。最初は世界で 4000 万人が亡くなったという記録が出ていましたが、それにはアフリカがカウントさ

れていなかったので、8000 万～1 憶近い人が亡くなったという数字が後に発表されています。

コロナの場合、9 月 17 日の時点で世界全体で 3000 万人が感染し、94 万人以上が亡くなっています。スペイン風邪と比べれば亡くなった人が圧倒的に少ない。ということは、これから本格的に亡くなる人が増えるのだろうと私は思っています。

今回のコロナウィルスは、人間が増え過ぎたことによって野生動物のテリトリーを侵し、それによって新種のウィルスが人間に取り付くようになった。つまり人間がそう仕掛けたのだと思えます。10 年前には鳥の新型インフルエンザウィルスが発生しました。その時は弱毒性だったために死ぬことはなかったので、話題から消えてしまいました。ただ、強毒性だった場合は日本では 64 万人が亡くなると厚労省が発表していたわけです。どう考えても、それが出現するであろうと私は思っています。

そして、本日のテーマも「コロナ禍」を取り上げました。私は、もうそろそろ第二波が見えると思っています。最近の報道を見ると、第一波と第二波という書き方になっていて、第一波は武漢型ウィルス、第二波はイタリアから発生し変異していったものが日本に入ったという表現が増えていますが、100 年後で見た場合、私は現在第一波・第二波と呼ばれるものは全部、第一波であると思っています。イタリア型のウィルスは武漢ウィルスの亜流ですから、第一波で変異したものが日本で広がって第二波に見えているのだと考えています。

そうすると、本物の第二波が来た時は、ニューノーマルというより生活の仕方が根底から変わってしまうと思っています。そうでなくても、今はコロナと共存していると思っていますが、本物の第二波来た時にはどうなるか・・・。

まず、普通の仕事が出来ません。食べ物はスーパーやコンビニに並ばなくなります。3.11 の時に現地で何が起きたか、皆さんの周りで何が起きたか思い出して下さい。コンビニの食料はなくなり、ガソリンも手に入りませんでした。色々なものがなくなりました。この時は短期的でしたが、コロナの場合は長期戦になります。長期間ガソリンがない、長期間食べ物がない、ないない尽くしが始まります。

災害等緊急時に備えて国が推奨する食糧の備蓄は、言い始めた当初は 3 日間分でした。それが 1 週間に変わり、最近は大きな声では言っていませんが 3 ヶ月分は必要だという話が出ています。3 ヶ月分の食糧を備蓄するのは相当大変です。水 3 ヶ月分など、とても用意出来ません。ということは、餓死する人が出て来てもおかしくはないものが第二波であろうと思っています。

もう我々はニューノーマルの世界に入りました。コロナと共生するための動きとして、私は今、家の外に外玄関を作り、そこに手洗い用の水道をつけて、全身が消毒出来るようなミストの設備や、着ていた服を吊るして殺菌消毒が出来るような設備を作らなければいけないと思って準備を進めています。ふところ事情によりますが、最低限この３つは必要だろうと思っていますし、これらが当たり前の世の中に変わっていくだろうと思っています。そうならなければ一番良いのですが、本物の第二波が来た、又は本物の第二波が来ると感じた時には号外を再開致し、あれをしましょう・これをしましょう・私はこうしている･･･等、具体的に書くつもりです。

私は夏から赤城にこもっていると申しましたが、赤城の庭に、以前フォーラムの会員だった津久井造園さんに明日葉やワラビやミョウガ等、手をかけずに育つ野菜を植えて戴きました。自宅のベランダには、秋のきゅうりやナスが育っています。皆さんもこれから食べ物がなくなるとしたら、自分の家の庭や、マンションならベランダで、食べられるものを作ると良いでしょう。我が家の場合、ジャガイモやさつま芋など芋類と野菜は何とかなると思っていますし、水も自分で何処かへ取りに行くことが出来れば確保できると思っています。それから保冷庫を買って、玄米を保存しておこうと思っています。3ヶ月生き延びるためにはどうしたらよいかを考えて行動しています。

紹介書籍

本日のテーマ「コロナ禍Ⅱ」については、生き延びるということを大前提に考えています。生き延びるということについて、参考になる本をご紹介します。

１冊目は『物の見方 考え方』（松下幸之助著　ＰＨＰ文庫）です。この本で良いと思ったのは、人から見て或いは自分から見て〈これは良い〉と思ったことでも、物の見方によって変わるということです。松下幸之助は小さいうちに丁稚奉公に出されたわけですが、そのおかげで人情の機微が分かるようになったし、商人としてのイロハを叩きこまれたので、自分にとってはとても良かったと言っています。

また、身体が弱かったことで、人を頼る事を覚えたとも言っています。後に松下幸之助は、創業当時社員が 100 人位の時は良かった。社員の顔が分かって、肩を叩いて「何とか頼む」と言えた。それが 500 人 1000 人になると、なかなか通じなくなってくる。1 万人を超えると、社員の後ろ姿に、何とかお願いしますと拝むようになった・・・と回想しています。身体が弱いことによって、人にお願いしますと仕事が頼めるようになったので、自分にとっては良かったと考えています。ものの見方で違ってくるわけです。

更に松下幸之助は、自分は高等教育を受けていないから、自分より賢い人がいたら、頭を低くして教わることが出来た。人に聞くことを恥だと思わずに素直に頼むことが出来たし、相手も丁寧に教えてくれたと言っています。

つまり、マイナス面を捉えるのではなくて、プラス面、プラス面と見ていくと、結構よい事が世の中にあるということです。コロナ禍も、自分が変わる・会社が変わる・社会が変わる大きな転換点なのだと考えると、捨てたものではないと考えられます。

二冊目は『高橋是清と井上準之助 ― インフレか、デフレか』（鈴木隆著　文春新書）です。今、日本の国債が酷いことになっていますが、100 年前に同じ状況が起きていました。国債をどんどん発行してどうにもならない状況になっていたのを、高橋是清が大蔵大臣になって処理しました。高橋是清については今井副理事長が前から研究をしておられるので、次回かその次のフォーラムで高橋是清について 30 分くらいお話しして戴くというのは如何でしょうか。是非、お願い致します。

三冊目は『コロナの衝撃 ― 感染爆発で世界はどうなる？』（小原雅博著　ディスカバー携書）です。これもコロナについて面白い視点で書かれていますのでご紹介します。

最後に、今のコロナ禍を自分自身に置き換えて考えてみました。先ほど、食べ物を確保して生き延びようと申しました。食べ物を確保して生き延びたら、その次は何をやるか。これだけ世の中が激変する時代に入ったのだから、チャンスが沢山転がっています。そのかわり一つ失敗したら転がり落ちていく。実に面白い、ワクワクした時代に入ったと感じていますので、私は今、ムラムラと身体中から沸き起こって来るものがあります。

そういう眼で世の中を眺めると、結構チャンスが転がっていますね。新しくデジタル庁が設立されますが、デジタル化は大きな流れで、菅さんが始めたのですから手を付けないわけがないと思っています。マイナンバーもその一つです。

マイナンバーについて余分なことを申しますと、国はマイナンバーに運転免許証をつけるとか、クレジットカードをつけると言っていますが、何のことはない、国民から税金を根こそぎ取りたい。足りないと思ったら、また新しい法律を作って税金を増やそうとしています。国民から税金を根こそぎ取るための手法としてマイナンバーを考えたと私は思っているので、私は作らないと思っているのですが、菅政権はどうもそういうことを進めようとしているので、困ったものだと思っています。

いずれにしても、デジタル化が進めば進むほど、人と人との繋がりがとても大事なものになります。フェース・ツー・フェースで会って話をして何かをする、そういうものの価

値が跳ね上がると思っています。一対一で話をするような場合、値段のつけ方が今までとはまるで違うものになる。今まで高かったものが安くなり、安かったものがべらぼうに跳ね上がると思っています。そういう点でスタグフレーションとハイパーインフレによくよく注意して、自分自身に取り入れていかなければいけない。そういう時代になったと思っています。

　ハイパーインフレについての対処の仕方は、今井理事長がお話される高橋是清の中で出てくると存じます。乞うご期待です。以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。